

東北放射線医療技術学術大会におけるプログラム委員会の活動をご存じでしょうか。申請された演題をひとつひとつ確認し審査するし、プログラムを作成するのは大きな仕事で、その歴史は第1回大会から続いています。当初は実行委員会が主体となり、各県から委員を招聘し活動していました。しかし、大会毎の実行委員会の負担が大きいことや他の学術大会の現状を考慮した上で、「独立した専門委員会」へと変遷してきた歴史があります。さらに第9回大会（TCRT2019：仙台）においては、演題登録、および審査のシステム化を目指し、東北支部が中心に限りある予算の中から少しずつシステム構築を進めてきました。その過程においては、第9回から第13回（TCRT2023:山形）までプログラム委員長を務めた金沢勉（新潟大学医歯学総合病院）先生にトライアルとして、構築中の本システムの部分的利用や評価をいただくなど、トライ&エラーを繰り返していました。その後、私が、本年度、第14回（TCRT2024：秋田）からプログラム委員長を拝命したことを機に演題登録と演題審査について全面的に本システムの利用を開始しています。本システムでは、申請者が登録した情報を元に該当分野の審査員が一次審査を行います。審査項目は、演題名（タイトル）、目的、方法、結果、新規性について4段階で評価し、第1回のJCRTM同様の倫理確認も行われます。結果として申請演題毎に点数化がされ、採択が決定される仕組みです。

また、本大会からは、プログラム委員の半数を交代し、多くの会員にその機会を経験してもらうことに勤めています。TCRTの演題審査で得た経験をJCRTやJSRT秋季大会、さらにはJRCの運営に繋がるような、人材の育成を視野に入れています。今後も多くの会員にプログラム委員を経験していただきたいと考えています。さて、話はTCRTの演題登録・審査に本システム戻ります。演題登録は、個人の情報であると同時にTCRTとして大会毎の貴重な財産であると考えています。大会の記録であるとともに、TCRTの記録情報として体系的に管理することで、当初の目的に留まらない大会運営に寄与する情報になることを期待しています。具体的には審査過程の分析等です。貴重な時間をいただいて審査を行っていますので多角的な視点で情報をまとめ、次世代につなげる仕組みを目指します。TCRTに関わる全ての皆様には引き続き、ご協力をお願いします。